

VR 技術を用いたシミュレーションシステムの開発

バーチャルリアリティ技術を使用し、従来よりも更にイメージしやすい模型作りに取り組んだ。

本 業 の 動 向 に つ い て

航空機、宇宙開発向けの機械加工部品の製造や、自動車、航空機用治工具、工業用模型の製作を主要業とする。

業況としては、業界内で模型製作そのものの需要が減少していたり単価が下がっていたりするため全体的に不調。しかし、現在は今後のための生産準備段階にいるため、立て直しを見込んでいる。

公 設 研 究 機 関 と の 連 携 事 業 に つ い て

連携先公設研究機関の名称

岐阜県情報技術研究所

所在地

岐阜県各務原市テクノプラザ一丁目 21 番地

連携内容

同機関が所有する VR 技術（バーチャルリアリティ技術）を用いたハード、ソフトウェア一体のシステム開発。それまでは紙の上での製図や CAD を用いたものが主流であったが、精通した技術者でないと理解が難しいなどの問題があり、より正確でわかりやすいシミュレーションを求めるといった背景があった。H18 年の共同研究で、自社から 3~4 名を担当に置いた。

連携した動機やきっかけ

元々 VR 技術の運用、保守などを行っていたこの試験施設が自社の近くにあり、度々利用することがあった。しかし、利用の際には煩雑な手間が双方にかかることから共同研究という提案を受け、設備や機器を使用しやすくした。

連携の効果

まずは煩わしいものだった毎度の申請作業がなくなり、開発に専念できた。また、補助金制度の利用によりコストの削減にも繋がった。

連携して最も効果のあったこと

このシミュレーションシステムを用いることにより、ユーザーに対してよりわかりやすいビジュアルで提案

することができた。

連携して最も困難だったこと

開発したこのシステムの運用後まもなく、同機関が所有するソフトウェアの利用が、県の財政難の影響により有償となってしまった。このソフトウェアは同システムの運用には不可欠のものであったが、大変に高価なものであったため、数件の実働の後敢え無く使用中断、お蔵入りとなるに至った。

連携するメリット・デメリットについて

メリットとしては有能な機器や施設を無料で使用できること。デメリットは特に見当たらない。

連携に際しての注意、アドバイスなど

公設試験研究機関の研究員や施設に頼って事業化することを避け、過度な比重を置かず、あくまで普段では利用できない施設が使えると割り切ることが望ましい。

公 設 研 究 機 関 と の 連 携 で 行 政 に 望 む 支 援

開発が進み、ある程度の段階まで成果が上がった場合、それらの事業はすべて企業へ移譲していただけると良い。

会社概要

設 立 : 昭和 44 年 (創業 昭和 23 年)

資 本 金 : 3,000 万円

従 業 員 数 : 30 名

U R L : <http://www.tokuda.co.jp/>